

東海自然歩道を歩く

西野々から大滝橋まで

2014年11月15日(土)
～16日(日)

【メンバー】浜口(L)、斎藤(幸)、斎藤(光)、星野、浜口(由)

【コースタイム】

11/15 西野々9:05－11:00 焼山 11:20－13:05 東海自然歩道・最高標高地点 13:20－13:25 姫次－
15:10 風巻ノ頭 15:30－16:40 神ノ川ヒュッテ
11/16 神ノ川ヒュッテ 8:00－9:45 犬越路 10:10－11:25 用木沢出合－11:55 西丹沢自然教室－
箒沢荘－ほうき杉－14:20 大滝橋

記録：浜口

ちょうど1年前の10月下旬に計画し、台風(27号)の接近で中止としたコースの再チャレンジです。JR横浜線と京王線の橋本駅からバス(8:00発)で三ヶ木まで行って、三ヶ木から予約していたタクシーにて丹沢・焼山の登山口である西野々バス停までというアプローチで、午前9時頃のスタートとなりました。

この時期になるとヤマビルの心配も無く、落葉の絨毯を踏みながら葉っぱの落ちた木々の間からの高尾山から道志川と相模川沿いの錦織の山々の眺望も美しく、爽やかな秋のハイキングを楽しめます。また、交通の便が悪いため登山者も少なく静かです。

ひたすら登り続け、ほぼコースタイム通り2時間ほどで焼山山頂に到着。山頂に立っている櫓は2001年に見たときは結構ボロボロで立ち入り禁止だったような気がするのですが、今は塗装もピカピカで大塚さん、星野さん達が早速登って眺望に大歓声。みんな元気です。

焼山から袖平山までは小さなアップダウンの連続で、立派なブナの巨木がある東海自然歩道の最高標高地点(1,433m)で記念写真を撮ったり、姫次で富士山、蛭ヶ岳や檜洞丸といった秋色の丹沢の山々の眺望を堪能しました。しかし、姫次出発は既に午後1時半頃となっていたので、今回のルートで一番キツイ風巻尾根の標高差約900mの下りは日没との戦いです。



(東海自然歩道の最高標高地点)



(風巻ノ頭、ここからキツイ下りが始まる)

風巻尾根の下りは危険な場所も多いので、暗くなる前に終えたいと焦りながらも慎重に下ります。風巻ノ頭には真新しい東屋があり小休止。更に急な下りが続きます。足も疲れ写真を撮る余裕もなくひたすら下り、なんとか明るいうちに下り切って林道から神ノ川ヒュッテに辿り着きました。ほぼコースタイム通りでした。

神ノ川ヒュッテの本館宿泊は我々のパーティ6名のみ、テント場には6~7張くらいのテントで高校の山岳部を中心に20名程度くらい。オバサン2人、オジサン1人で天ぷら、マス(たぶん)のアルミホイル焼き、煮物、けんちん汁と豪華で美味しくボリュームたっぷりの夕食を作ってください、お風呂もあって快適な山小屋でした。しかし、暖を求めて布団に侵入してくるカメムシには難儀しました・・・。



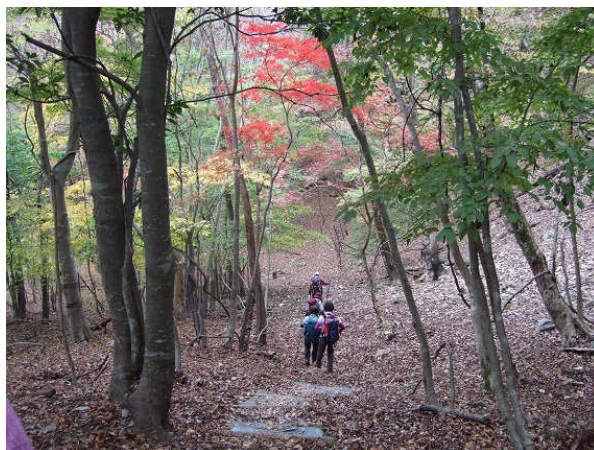
翌朝は小屋番のオジサン1人だけだったので、朝食は、いつも自炊のときに大活躍の星野さんを筆頭にシリウスの女性陣がお手伝い。しっかり食べて犬越路へ出発。午後のバスの時刻までたっぷり余裕があるので、2日目ものんびり秋の丹沢を楽しみながら歩くことにしました。

犬越路までの沢沿いの登りは落石危険地帯があり、上部は崩落でルートが変更になったりしています。しかしほとんど葉が散っていた稜線のルートとは違って沢沿いのルートは紅葉も溪流も綺麗です。

犬越路は西丹沢自然教室から大室山や檜洞丸への分岐点なので、前日の姫次と同様に多くの登山者が休憩していました。我々も小休止の後、用木沢合へ向け下山。こちらが沢沿いのルートなので紅葉を楽しみながらのんびり下りました。

西丹沢自然教室でバス待ちでも良いかと思っていたのですが、皆さんは大滝橋まで歩いて良いとのことでしたのでアスファルト道を歩くことにしました。昨年、西丹沢のルートで宿泊した箒沢荘に寄って女性はコーヒーとパンケーキ、男2人は冷えたビールで歓談。天然記念物で樹齢2000年(推定)の「ほうき杉」を見物し、大滝橋バス停にて約30分ほど待って臨時バスは満員でスルー、その後に来た定期便のバスに乗り新松田駅で全員無事下山、解散としました。

秋の丹沢を満喫しました。これで東海自然歩道は2012年4月の高尾山から3年半かかって富士川までのルートをほぼ踏破しました。富士川から先はもうすこしペースを上げたいと思っています。



(たおやかな紅葉の用木沢を下る)